

# 気仙沼への

第2号  
2009.2



発行：地域活性化研究会 気仙沼ビューロー  
東京都台東区東上野6-1-1  
(社) 漁業信用基金中央会内 地域活性化研究会  
TEL: 03-3841-4035  
メールアドレス  
kesenumabureau@yahoo.co.jp

## 特集・私の視点～気仙沼の魅力はここ

### 気仙沼の魅力を語り合いたい

日出 英輔

私が夢に見る気仙沼は、お神明さんで早朝出航する船を見送る人達(女性が多かった)、銭湯での船方達の銅鑼声、そして市場でのサンマの小山と鰹のしっぽが並んだ魚籠の列、十八鳴浜での友の表情、そして明るい光の中で忙しく働く人達である。

ところで、全国各地でまちづくりのため、人寄せのための施設づくり、有名人を招いての催しなどが見られるが、まちづくりにはあまり効果はない。まちづくりの出発点は、その地域にしかない個性的な魅力を住んでいる人達が語り合い、しっかりと共有すること。もっとも、外の人があるまにに住み続けていないからこそ感ずるふるさとの魅力も多いから、これを忘れてはもったいない。そして、これらの魅力を強く内外に発信するとともに、孫達に語り伝えていく。そうすれば、住んで良かったというまちつ

くりが進み、必ず外部の人達もこの地域に引き寄せられる。

気仙沼のまちづくりにも、このことは当てはまると確信する。

気仙沼を離れてまもなく50年の私が最近感ずる気仙沼の魅力は、フカヒレ加工、牡蠣剥き、鰹のおろし方等の体験への誘惑? 魚市場の屋外見学施設やシャークミュージアムも、市場や船乗りあがりの人等の口から語ってもらえば、大いに魅力的になる。唐桑の大理石海岸だって巨釜、半造にも劣らないほど魅力的だ。他にもまだ語り尽くせない。

私は、本稿でこのまちの個性的な魅力を語ることによって、気仙沼のまちづくりに参加しつつある実感を持つことが出来ることに無上の幸せを感じるこの頃である。

(ひので・えいすけ) 昭和16(1941)年生まれ。前参議院議員。平成17年、地域活性化研究会を立ち上げ、全国の農林水産業・食品産業を中心とした地域おこしの支援をおこなっている。

### 夢

畠山 朔男

ある晩私は夢を見た。

水平線の彼方に沈む夕日を眺めている自分が居た。ここは何処だろうと辺りを見渡すと右手の眼下には見慣れた気仙沼湾とあかりが灯りだした人家がみえる。さらに右回りに目をやると唐桑半島、その向こうには暮れなずむ廣田湾が

黒く浮かび上がって見える。

どうも私の居るところは大島の亀山の山頂らしい。何故自分が亀山に居るのだろうと思ったところで目が覚めた。昨夜寝る前に“第2号気仙沼への風”への寄稿期限が迫っており、今回のテーマ“私の視点：気仙沼の魅力は何か?”

について思いを巡らせている内にどうも眠ってしまったらしい。

数年前に星空がきれいに見えるランキングで気仙沼が全国で NO. 5 にランクインされた事を覚えており、還暦記念旅行の時、見たハワイ島のマウナケラ山頂から眺めたあの満天の星空と郷里の大島の亀山山頂からいつか星空を見たいという願望が重なってあの夢のシーンになったのであろう。そうだ気仙沼には大島という観光資源があるではないか。

亀山山頂でサンセットと星空を眺める観光コースをもう少し整備されては如何であろうか。

寒い季節でも上がれる様なロープウェイ、星空を眺めた後は殻付の焼き牡蠣と冷えた白ワインが味わえるような場所が山頂付近にあれば BEST であるがお金がかかる話であり無理としても下山後は船着場周辺で殻付牡蠣をこじ開けレモンの絞り汁を一振り、冷えた白ワイン、否ここは両国とか男山の大吟醸冷酒が似合うはずだ。民宿では例によって船盛りの鮮魚が並び、ここぞとばかりに気仙沼産を堪能して頂く。翌朝は自転車で島巡りで小田の浜、龍舞崎、十八鳴浜など観光でも楽しめるであろう。またオプションとして早朝から両漁師さんによる船頭釣りや大島周遊や廣田湾沖辺りまでの 2-3 時間のクルージングもまた良し。夕方からは季節が良ければ浜でマグロのかま焼きをパフォーマンスとして見せ、旅行客に振舞って上げたら、結構人気が出るのではなかろうか。

気仙沼には観光資源が豊富なのに観光客が増えないのは高速道路が走っていないからとか新幹線の最寄り駅から不便だとか言われるが本当にそうだろうか。

バブル時代には大型バスでどっと繰り出し、ドンチャン騒ぎして帰るのが団体旅行の定番であったが最近では団塊の世代が会社を定年退職し夫婦でとか友人数人での気ままにゆっくりと

ローカル線を利用するなどゆとりのある質の良い旅行が主流になりつつある。

気仙沼には何百人の客が一度に宿泊できる施設が無いから、と嘆くなかれ。気仙沼に存在する小規模旅館や数多くある民宿が総がかりでお持て成しに徹すればよい。その為には横の連携が重要になる。自分のところさえ良ければの考えはこの際捨てて頂きたい。

お金を掛けたハード面の整備は最小限にして、むしろソフト面＝お持て成しの心の整備に力を注ぐべきと思うが如何であろうか。

食の面でも素材は海の幸、山の幸と豊富である。これらの食材をへたに手を加えずに出来るだけ新鮮さを前面に出し、お値段もさすが産地ならではの旅行者を感嘆させる必要がある。気仙沼へのリピーター旅行者を期待するにはくどい様であるが気仙沼ならではの新鮮な魚と産地としてのリーズナブルな値段の提供がポイントである。

昔から気仙沼地方に伝わっている“あざら”や“どんこ汁”も今や幻の食文化になりつつあるが是非、復活させて頂きどこの旅館でも食べられるメニューに加えて頂ければフカヒレスープや秋刀魚の握り鮓同様に人気が出ることは間違いなし。

兎に角気仙沼は今やかつおの水揚げ日本一とかフカヒレと言えば気仙沼とか部分的に全国区になりつつある事は間違いない。

更に旅行に行きたい先の 10 位くらいまで常時ランクインされる様にする為にもお持て成しの心が行き届いた未開発ではあるが魅力ある“気仙沼”が三陸、陸中に存在していることをブログの充実などお金を掛けないメディアを十二分に活用され継続的で効率的な P.R. 活動が重要と考える。

(はたけやま・さくお) 昭和 15 (1940) 年生まれ。丸紅メタル (株) 非常勤顧問。

## お魚いちば

近藤 章

何と「お魚いちば」はしばらくの間閉店とのことです。東京へのお土産には、お魚いちばの魚介類が何よりも東京出身のカミサンが愛用のお店でした。

親しい人への贈り物にもよく頼んでいました。昨年、それまで電話で注文を受けてくれていた新野さんという女性に初めて直接お目にかかれて、カミサンはとても喜んでおりました。

いつも親切にいろいろお勧めのものをご紹介してくれていたようです。イメージどおりの感じの良い、美人でした。私も初めてお目にかかって、この様な方が電話してくれていたのが「お魚いちば」のものが一層おいしく感じられていたのだなーと思ったことでした。きっと「看板むすめ」さんだったろうねとカミサンと話していたのです。

ネットで見ても、都合によりしばらくの間休止させていただくことになりましたとのこと。誠にザンネンに思っております。

きっと、経営者が代わって再開することであろうと思っておりますが、気仙沼らしいお店が、特にひいきのお店が閉店との知らせに、不景気の波は気仙沼にも例外なく押し寄せているのだなーと思っております。

ちょうど、柏崎の気仙沼プラザホテルの入り口にあるので、お店の前に観光バスが何台も止まっていた光景を思い出しました。

魚市場のほうにある海鮮市場「海の市」に統合する話もあるやに聞いておりますが、「お魚いちば」が順調に再開するように切に願っております。そしてまた、新野さんの明るい声が聞ける日をカミサン共々、心から待ち望んでおります。

(こんどう・あきら) 昭和 17 (1942) 年生まれ。(株) ISI パートナース 事業開発部長

## 故里随想

村上 洽視

故里をこよなく愛し、『海はいのちのみなもと 波はいのちのかがやき 大島よ 永遠にみどりの真珠であれ』と詠んだのは、詩人・童話作家で気仙沼大島出身の水上不二(1904 - 1965)である。

その故里を離れて40余年……。この間、全漁連(東京)を経て、現在、海と沿岸漁業に関係する公益法人に勤務している。

いま、水産業界とりわけ遠洋漁業は、燃油の高騰(昨年に比べ、いまは下がったが)と魚価の低迷等を反映して存続の危機のまっただ中にある。ふるさと気仙沼も例外ではなく、さらにマグロの資源管理からの国際規制の強化を受け、マグロ漁業の減船が進み、その行方が大変気にかかる。

しかし、現状を座視することなく、前へ進ま

なければ気仙沼の明日はない。そのための一つの方策として、地元関係者と多方面で活躍する方々との情報・意見交換を通じ、水産業を中心とする地場産業の今後の進むべき途を探ることが地域の活性化につながるのではなかろうか。

さて、今回のテーマに沿って、気仙沼の魅力の観光スポットの一つとして『日本の渚・百選』に入っている鳴き砂の大島十八鳴浜(くぐなりはま)をとりあげたい。ひとり喧騒から離れ、美しい景色を眺めているだけで心が癒される。小生が子供の頃、母におにぎりを包んで貰い、初夏の十八鳴浜で「鳴き砂」の神秘と白砂青松に彩られる浜で過ごしたことが思い出される。大島に先祖が眠る故山があり、いずれ気候の良いときに訪ね、墓参を兼ねて英気を養いたいと思っている。

(むらかみ・ひろし) 昭和 22 (1947) 年生まれ。財団法人漁場油濁被害救済基金に勤務。

## 拝啓 けせんぬま様

菅原 洋道

前回に続き、今回も「そのあたりの撮り歩き」を道順で書いてみます。

今回は笹が陣から南ヶ丘界限。

思えば小学校から高等学校までの18年もの間、行ったり来たりしたこの辺りは、暗くなるまで遊びまわった「主戦場」でもあります。

まずは、笹が陣。ここは市立図書館周辺の木立をどう撮ろうか迷うところ。図書館の建物が老木と化したサクラの木とともにとても雰囲気がありますね。暖かい季節限定で、サクラの木の下でちょっと漂う潮風を楽しめるコーヒールウンジなぞできないものでしょうか…。

図書館裏庭の小道を抜けて中学校の体育館へ。

おおよそ昔のままの体育館がいろいろあった中学生時代を懐かしく思い出させてくれます。いえいえ何というかほんと、いろいろあったんです。それはそれとして、体育館から海のほうを見ると、正面に市民会館と旧電報電話局の鉄塔がいまもそこにデンと構えています。そうそう、市民会館といえば、何年生か忘れましたが、小学校の学芸会で演じた「勸進帳」で、武士Bあたりをやらされた記憶があります。台詞無かったよなあ。まあ、ここいらは“関係者”しか楽しめそうも無いので次へ。

中学校の南側、大川のほうへ下りてゆく急坂には季節になると素晴らしい山吹がいまも咲き乱れているはず。ただし、山吹を美しく撮れる季節はそう長くは無く、一雨ごとに花が白くにごってしまいますので、地元に住んでいないとなかなか難しいですね。

道に戻して、市民会館前を通過して南ヶ丘へ。

市民会館の東側の小高くなったところに、いまは既に使われなくなって久しいちょっと垢抜けた建物があります。沈む夕日に薄汚れた黄色

い壁は寂しすぎますが、雰囲気があっただけは好きです。なぜ空き家のままなのかは怖くて聞けません。

その昔、学校へ向かう途中、随分お世話になった雑貨屋さんの前を通過して市場方向へ。このあたりは、道幅がせまいので市民会館の駐車場に車をすてて、いつも徒歩。

内脇保育所を過ぎてすこしすすむと小さな十字路があります。右は急坂で途中大きくカーブする道で、ここからは湾内と大島がよく見えます。坂を下り切って左手の古い階段を登るとそこは旧内脇保育所と貝塚（内脇3号貝塚だったような）。野良猫の集会所？にでもなっているんでしょうね、気持ちよさそうに体を延べる猫たちに出会えます。

さっきの十字路へ戻って、今度は反対側へ折れると先ほどの旧電報電話局の鉄塔へ抜ける道です。住んでいる人たちには悪いですが、坂の途中にはなんともレトロ！な町並があります。ガラス戸の枠が木製だったり、錆びた波なみなトタン屋根だったり。

せっかく下りた坂をまた上りましょう。

十字路へもどって、さらに市場方向へ向かうと、急に眼前に湾の対岸にある造船所がみえるところへ出ます。梅雨時などの雨上がりに見るその景色は、濁って絵の具でも溶いた様な海の色と澄んだ空気です。とても“リリカルカラー”な風景です。

とここまで来て、許された紙数を大幅にオーバーしていることに気がつきました。次回のビューローでこのつづきを書くことをお許し願って、今日はここまで…。

敬具

(すがわら・ひろみち) 昭和35(1961)年生まれ。仙台市在住。スガワラ保険サービス代表、NPOふるさとテレビ仙台支局長。



## 気仙沼を歩こう!

小山 利英子

私は魚町・海岸通りで育ちましたので、私が愛する場所は、やっぱり「おしめさん(五十鈴神社)」です。

「おしめさん」には小さな洞穴のような穴があり、それは不気味で、子供の時には「モウ(おばけ)の家だ」と教わりました。「せずねーわらすは、モウの家さ、けでやっつお」と脅かされると、あの不気味な穴を想像しておとなしくなります。

夜の浮見堂はライトアップされて実に美しい。

これを見ると「あー、帰ってきた」と思います。地元の皆様が、この場所を大切に守ってくださることに感謝しています。

私の祖母は「鶴が浦」から舟に乗って嫁にきました。昭和8年頃ですから、浮見堂はあったと思います。

祖母の実家方から聞いた話では「その当時に鶴が浦から気仙沼・旧市内に嫁ぐというのは、今の時代に海外に嫁ぐよりも、はるか遠かったんだねー」などと大げさに言うので、私が思わず笑ってしまうと、「なに、ほんとだがんね」と真剣に言いますので、そういうものかと思いました。祖母はどのような気持ちで「浮見堂」を見たのでしょうか。今は知るよしもありません。

そんな祖母の実家から見る景色が実に美しい。

ちょっと小高い場所に家があり、気仙沼湾を見下ろし、真正面には大島の亀山が青々と広が

ります。それを見るたびに、ピーターパンに出てくるネバーランドとはこういう所ではないかと勝手な想像をします。

気仙沼湾は、魚町から見るのと鶴が浦から見るのとでは全然違う顔を持ちます。地元の皆様には、朝に夕に見る海がそれほどの資源とは思えぬかもしれません。私がそうでした。東京に住んで長きになりますと、この景色に癒されま

す。そんな気仙沼を最近では歩くようにしています。歩く速度で見る景色には、様々な発見があつておもしろい。気仙沼の良さを再発見です。

その反面、おもいのほか道路標示が少ないことにも気づきます。おおげさな道路標示を作るには予算もいりますが、例えば手作りの表示を街のあちらこちらに作る運動はどうでしょうか?

その前に、観光客気分で気仙沼を歩きませんか?

健康に良いし、ダイエットにも良い。食事はうまくなる。お友達と誘い合って「今週は〇〇まで、ほんで来週はもうちょっと先の〇〇まで」と行ってはいかががでしょう。飽っこなめなめ、話をしながらブラブラ歩くのは案外と楽しいものです。

いい景色に出会ったらデジカメに収めます。そして是非ブログに掲載を。

「なにす!ブログだど?」

続きは次号でお会いしましょう。

## 千鳥足に星空を

武山 健自

曾祖母の13回忌前夜の12月初旬だった。田中前で友人と飲み、浜見山の実家まで歩いて帰った時のことだ。大橋から見上げた星空が忘れられない。

南小入口の信号から大橋に向かうゆるやかな坂道。放射冷却の空気がより星空を輝かせている。気仙沼で撮影した映画監督のブログに「気仙沼の星空に涙した」とあったのを思い出した。一面に広がる星空にそうだよなあ、こりゃ泣くっしょ、と思いながら歩いていた。

そしたら今度は橋の下でピチャッと音がした。それが遡上する鮭だと分かって、自分の「生」を感じたと言ったら大袈裟だが、何もかにもありがたいと思えてオイオイ泣いた。

そんな感慨にふけりながらガードをくぐると、なぜか民家の窓が軒並み開いていた。

茶の間にいたおばちゃんと目があう。やばい。たぶん、奇特なおんちゃんの徘徊だと思われ

たことだろう。それにしてもなぜ夜中に全開なのか。まさか星空を眺めているわけではないだろうと思っていたら、防災無線が鳴った。

「只今の地震による津波の心配はありません」

地面の揺れを感じぬほどの満天の星。

千鳥足だったからかもしれないが、あれは星空のせいだと勝手に解釈している。

今回のテーマである魅力はここ、陣山、鶴が浦、亀山、徳仙丈能楽堂、船からみた小鯖地区…たくさんありすぎて書ききれない。というわけで僕は気仙沼のどこでも見ることのできる星空をおすすめしたい。特に酩酊状態で眺める星空。東京都心では絶対に見れない風景だもの。気の置けない仲間とうまい酒肴と星空と。こんど帰省したらビニールハウスで星空バーでもやろうかと考えている。

って、それこそ奇特なおんちゃんかも。

(たけやま・けんじ) 昭和48(1973)年生まれ。(株)イーシンコミュニケーションズ代表取締役。主に印刷物の編集デザインに携わっている。

## 中小企業診断士の視点から

### 郷土の「強み」をみんなで活かしましょう

大森 郁夫

「水産業中心である」ことに誇りをもち、その「強み」を官民一体となって発揮することにより成長・発展できる可能性が大きいことが故郷気仙沼の魅力です。

日本経済は産業発展と成長とともに、ものの豊かさ、生活の豊かさを目指し一次産業から第二次産業中心の経済構造に、さらには経済のサービス化が進み、今や第三次産業が日本経済の主流を占めるに至っています。

農林水産業においては、1960年代は労働人口の約33%が従事していたものが2000

年には約5%まで減少し、GDPに占めるその割合は2002年には1.4%、2006年には1.2%まで減少しています。

農業総生産額は2003年から2006年にかけて5.3兆円円から4.7兆円まで縮小、とくに問題であるのは穀物の自給率はいまや約27%の実態です。

気仙沼の産業の柱である日本の水産業は、生産額で1982年の2.98兆円をピークに減少し始め2002年は1兆円、2006年には0.84兆円にまで減少しています。GDPに

占める割合は、2002年は0.21%でしたが2006年には0.16%の比率まで低下し、食用魚介類の自給率は1960年代には100%を超えていた状態から2006年は59%（概算値）と低下しており、水産国日本の地位は低下の一途をたどっているかに見えます。この状況の原因は国内の消費生活の嗜好の変化・人口増加の停滞、流通機構の未整備、加工産業における国際比較での人件費の高水準化などがあげられます。また、生産・供給側にとっての様々な国際的制約があったのはご承知のとおりです。

このような日本全体の状況を見ますと水産業に携わる市民として「環境の悪さや弱み」の側面が多いと見がちですが、「魚介類の自給率や約60%」や「食料自給率40%」という状況はシンギュラーポイント（特異点・転換点）としてみることができ、気仙沼の産業の環境は政策一つで「強み」に転換できる状況にあると考えることができます。

日本の産業は再度、生産物を中心とした第一次、第二次産業という「実」の経済を構築する必要性に迫られており、情報・サービスの付加価値を求める第三次産業中心の経済には大きな変化がおきることが予想されます。

また、国民経済の消費生活の側面からみれば国民生活の根幹は食・住・衣にあり、第一産業充実への回帰が望まれています。地方自治体、公共団体、各種産業協同組合、市民一体となっ

た気仙沼発「水産業復興の狼煙」を全国に向けてあげたいものです。

その政策の企画立案・実行の中心は「市政」にあります。長期的視点での水産業に従事する人材の育成から始まり、地方税制の変革と活用、奨励・補助金の活用、産業促進のための共同事業化、獲る水産業から育成の水産業への傾斜・転換、気仙沼湾の有効活用等々、考えるとまだまだやれることは数多くあります。気仙沼から輩出した人材は実業界でも数多くおられるはずで、内側から部分最適の政策を取り上げるだけでなく、全体最適、将来最適の視点から、これらの人材の知恵を借り、活用することにより活力ある郷土を構築することも一つの方策です。

第二次産業、第三次産業は社会環境、世界経済の環境による変転は激しく、産業界における参入・退出は大変激しいものであり、産業全体をマクロ的に見ますと安定的に成長しているように見えるものですが内情はすざましい様相を呈しています。

第一次産業こそ政策次第で着実に安定的な発展を遂げることができる産業です。物心両面で豊かで活力ある気仙沼の発展を目的に、あらゆる環境や資源を水産業充実に資する視点から活用し、全国第7位の水揚げ高246億（2007年実績）を倍増するぐらいの戦略を考えたいものです。

（おもり・いくお）昭和16（1941）年生まれ。中小企業診断士。

## 皆様のご意見・ご感想をお待ち申し上げます

ご意見・ご感想、素朴な疑問から願いまで、皆様のお声をお待ち申し上げます。気仙沼地方の課題について、微力ですが一緒になって解決できれば幸いです。メールにて承ります。

メールアドレス [kesennumabureau@yahoo.co.jp](mailto:kesennumabureau@yahoo.co.jp)

※プリントアウトしてご活用ください。

## 地域活性化研究会 気仙沼ビューロー支援者

当団体をご支援いただく方々をご紹介します。(2009年1月現在 / 順不同 / 敬称略)

- 白井 賢志 気仙沼商工会議所 会頭
- 斉藤 徹 気仙沼市観光コンベンション協会 会長
- 足利 健一郎 (株)足利本店 代表取締役社長
- 川村 賢壽 (株)かわむら 代表取締役社長
- 亀谷 寿朗 福德漁業(株) 代表取締役社長
- 菅野 卓夫 (株)気仙沼青果物流通市場 代表取締役社長
- 佐藤 雄二 (株)カネダイ 代表取締役専務
- 和賀井 達夫 気仙沼ほてい(株) 代表取締役副社長
- 内海 哲郎 (有)菓子舗うつみ 代表取締役社長
- 馬場 国昭 (有)からくわクリーン 代表取締役

## 二月会 (にげつかい) が発足

毎月第二月曜日 18時30分より、千駄ヶ谷「雪っ子」にて定例懇親会を開催いたします。初参加、飛び込み、もちろん気仙沼からの参加も大歓迎です。と一緒に気仙沼を語りあいましょう。

「雪っ子」東京都渋谷区千駄ヶ谷 3-3-3-B エグゼクティブ原宿 TEL: 03-3470-4168

## 地域活性化研究会 気仙沼ビューローについて

当団体は気仙沼地方と縁を持つ者たちが、それぞれが得意とする分野からの提言や活動を行い、気仙沼地方の発展に寄与できることを目指し、平成20年11月に設立されました。今後、テーマを絞った提案や勉強会を行う予定ですが、まだ設立されたばかりで夢は膨らむばかりです。気仙沼地方が未永く発展できるよう、外部からサポートできる最大限の事業をすすめていきたい、そんな風に考えております。

なお、参加資格はありません。気仙沼へ思い入れを持つ方であればどなたでも参加になれますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

【参加メンバー】(2009年2月20日現在 ☆印:新メンバー)

- |                          |                               |
|--------------------------|-------------------------------|
| ☆ 中村 勝子                  | 村上 洽視 (財)漁場油濁被害救済基金           |
| ☆ 佐藤 晴男                  | 坂井 素美 (有)アドニス 専務取締役           |
| ☆ 千葉 一宏 チバプロダクツ(株)代表取締役  | 菅原 洋道 NPOふるさとテレビ 仙台支局長        |
| ☆ 佐々木 栄作 千駄ヶ谷「雪っ子」経営     | 高濱 悟 (株)ジェクト 代表取締役社長          |
| ☆ 尾形 将 元川鉄商事             | 小山利英子 (株)テレパス 代表取締役           |
| ☆ 貝塚文一郎 元伊藤忠エネックス取締役     | 川村 浩 水産庁漁政部                   |
| 日出 英輔 地域活性化研究会会長・前参議院議員  | 畠山 明 (株)セレクトィ 代表取締役           |
| 畠山 朔男 丸紅メタル(株)非常勤顧問      | 岩手 裕美子 ジュピターショップチャンネル(株)      |
| 佐藤 則好 大一建設(株)代表取締役       | 佐藤 恭子 (株)デルコンピュータ             |
| 近藤 章 (株)ISIパートナーズ 事業開発部長 | 武山 健自 (株)イーシンコミュニケーションズ 代表取締役 |
| 大森 郁夫 中小企業診断士            |                               |